

2025年(令和7年)6月3日(火曜日)

電波新聞

パソルコミュニケーションサービス

パソルコミュニケーションサービスの運用の支援も開始。既存のサービスは2月3日付で富士通コミュニケーションサービスから社名変更し、新たな体制でスタートを切った。長年、富士通グループでコンタクトセンターサービスやIT(情報技術)サポート、業務の一部を請け負うBPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)サービスなどを手がけてきたが、新たにパソルグループ傘下に入り、双方の強みを生かしたサービス展開を図る。

2025年度は、

企業の情報システム部門などが抱えている課題に寄り添ったITサポートサービスに取り組む。導入済みのシステムの活用を支援するとともに既存システムのクラウド化に向けたインフ

ーやベンダーが販売する製品のサポートなどで蓄積してきた知見を持ち、ユーザーに寄り添った対応ができる。365の活用支援では、ユーザーインターフェースの観点からのアドバイスやワークフローの組み込みなどを顧客と伴走しながら進めている。

24年8月、生成AI(人工知能)のチャットボット活用支援サービスも始め、「AIチャットボット」が連携した運用が出てくることも想定し、人材育成も始めた。7月から「ITインフラエンジニア育成プログラム」をスタートする。マイクロソフトのクラウド関連の資格取得を進める計画で、年内に十数人規模まで育成する。3年後に50人規模まで増やす。

パソルGとの強み生かす

マイクロソフト365活用支援を本格化

企業の情報システム部門など、この一年く使ってもらえないという問い合わせも多い(小池氏)という。ベンダーに依存せず、3年後に50人規模まで増やす。

インフラサービス部門と連携してプログラムを進め、サービス領域で経験の豊富な人材が技術領域の知見を習得できる環境をつくることでサービス力と技術力を底上げする。小池氏は「クラウド移行に関する課題もニーズを拾い、小回りの効く支援をしていく」と話している。

事業部長 小池 構築し統制されていないなどの課題も多いという。

同社はコンタクトセンターで培ってきた企業内のヘルプデスク支援や、メーカーのようにすること。「自主的

